

令和6年度 東京都福祉人材確保対策推進協議会 第1回専門部会（普及啓発部会）
議事概要

1 日時

令和6年7月8日（月） 午後2時から午後4時まで

2 場所

ビジョンセンター西新宿702

3 主な意見（議題：福祉人材の魅力発信素材（案）について）

- ・福祉業界そのもののイメージが悪いことが先行しているため、こうした取り組みを通じ、まずは就職先の選択肢として他業界と同じ土俵に上げることが大事である。
- ・福祉職に就いている方々は、経済性以外の価値観を持っていることが想定される。そのような「なぜやっているのか」ということを明文化・言語化していけると良いのではないかな。
- ・1回のキャンペーンで全てを解決するのは難しいだろうが、まずやってみて、知ってもらうということは大事である。
- ・やりがいについては他の業界も同じように SNS 等で発信しているため、例えばクリエイティビティがある、チームで仕事を行うためフォローできるなどといった観点が伝えられると、就職時に学生が選択しやすくなるのではないかな。
- ・情報収集・アセスメントをして、その人に適したプロの介護をしているのだということが一般的にはあまり知られていないため、そのような神髄について発信してもいただけると良い。
- ・福祉自体の範囲が広いので、SNS で発信するにしても、ターゲットをある程度絞った方が良いのではないかな。
- ・やりがいだけでなく、資格を持っていれば転職がしやすい等の魅力やメリットを見せていくやり方もある。
- ・ロールモデルやキャリアパスによって成長の経過を示すことが良いのではないかな。
- ・人の暮らしそのものに全般的に関わっているのが福祉であり、入口としては誰もが関わる普遍的な業種であるため、そのようなことを情報として示せると良いのではないかな。
- ・キャリアパスは明確にすると多くのパターンが生じてしまうため、プロフェッショナルという道と、より地域社会に近いジェネラルという道を、想像力が膨らむように抽象化・普遍化しながら示すことが考えられる。
- ・高校の進路指導室等にも基礎的な資料はあるはずであり、それと差別化した、かつ福祉

の悪いイメージを払拭する内容が提示できると良い。

- 今の学生は、採用試験を受ければ受かってしまうので、給料面や休み、職場の雰囲気を見て慎重に就職先を決める。それくらい、人材確保に施設は苦慮している現状がある。また、給与面でいくら改善されたと言われても、現場の人たちには実感がなく、世間的、一般的にも知られていないのではないか。
- 福祉業界には、聖人君子のような性格ではないと入れないというイメージを持っている人が少なくなく、悪いイメージというよりも、高い志がないとできない仕事だといったハードルの高さに繋がっていると思われる。
- キャリアパスについては、ずっと介護の現場という道だけでなく、例えば地域のまちづくりやコンサルティングに携わる人、介護ロボットや自閉症の方のためのアプリ開発など、多様な福祉のフィールドがその先に広がっていくこともあると伝えられると良いと思う。